

平成21年度 第3回高梁市地域公共交通会議議事録（要約）

日時：平成21年12月25日（金）14:00～16:00

場所：高梁市文化交流館3階講座室

1. 開会

事務局：開会のあいさつ

2. あいさつ

会長あいさつ

事務局：会議成立確認（過半数出席確認：委員15名中11人出席）

規定により会長に議事進行をお願いしたい。

3. 議事

(1) 福地地区乗合タクシーの運行について

○乗合タクシーの案についての協議

○事務局より説明

【試験運行の概要】

- ・位置づけ：資料どおり
- ・スケジュール：資料どおり
- ・試験運行期間：資料どおり
- ・料金（今回の届出期間は12月が期限、改めてこの交通会議で本運行の料金を500円とすることの決議を得たい）

【利用状況】

- ・資料説明 1便あたり 1.71人の利用
12:40の便の利用が少ない
高下での乗車が半分を占める反面、利用者0名の待合場所もある
目的地としては成羽病院が54.9%、ゆめタウンが34.1%で約9割を占める

【地域の状況】福地をよくする会会長

- ・今年7月よりスタートし、乗車密度1.5を目指してやってきたが、目標を達成できる見通しが立った。
- ・福地地区内でも本運行の実施を議決した。交通会議での議決をお願いしたい。
- ・運行を委託しているタクシー会社と運行ダイヤの変更を検討している。
- ・資料にあるように、新たなルートを要望したい。
- ・本運行においても利用料金を500円としたい。
- ・利用率はあまり芳しくなく、今後も積極的な広報周知を行いたい。地域全体で乗合タクシーを守っていきたいと考えている。

- 会 長：この件についてご質問等があればお願いしたい。
- 事務局：本運行となっても市として補助金を出しているのので、本運行になっても利用状況の報告や地元との協議を続けていきたいのでよろしくお願いしたい。
- 委 員：資料を見ると9月の利用が多くなっているが、特別何かあったのか。
- 福地会長：住民の皆さんへ利用促進をお願いした。運動会等の行事もあった。
- 委 員：乗車密度 1.5 という目標があるので、目標を維持できるよう今後ともよろしくお願いしたい。
- 委 員：ルート変更を考えているが、これについては運輸局として対応は可能なのか。
- 事務局：ルートの変更自体を1月1日から実施することは考えていない。交通会議で了解いただいてから今後事業者とも相談し、手続きをして承認が得られ次第変えていきたい。ただ、料金についてはその前に申請していきたい。
- 委 員：本運行になってからもルート変更等は可能なのか。1回決めたら変更せずに続けていかなければならないのか。今回のルートについては試験運行を重ねていく中で変更の必要性が検討されたものとするが、今後の本運行の中で変更はありうるのか。
- 事務局：市として補助金を出しているのので、毎月利用状況や乗車密度をみながら、事業者との相談のもとでルート変更の必要があれば交通会議にかけて進めていきたい。可能性としては今後の変更もありうると思っている。
- 委 員：その辺ができるかどうか心配だったので質問させていただいた。
- 委 員：そもそも乗車密度 1.5 の根拠はどこにあるのか。帰りに使ってもらっていないので時刻の変更が検討されていると思うが、変更する時間が適当かどうかは調査した上で決めてあるのか。そのあたりがきちんとしてないと、変更しても利用してもらえないことになる。
- 会 長：まず、乗車密度 1.5 の根拠について説明をお願いしたい。
- 委 員：この数値は、同じような運行をしている玉川地区を参考にしている。時間帯については地元住民から要望が出てきたので検討した。タクシー事業者の採算ベースで言えば話にならないくらい低い数値である。
- 委 員：であるとすると、1.5 という数値にこだわる必要はないのではないかと。
- 委 員：企業ベースとしては合わないが、最低限の数字である。
- 委 員：最終的にこの運行が地域で支えられなくなると困るので、持続可能な設定にする必要がある。
- 委 員：利用料金については、我々が考えた利益者負担の上限が500円程度と判断した結果である。
- 委 員：1台あたりたくさんの方が乗らないと目標に達しない。地元で利用促進の運動等を行わなければ利用が下がると思うので、人口が減少化傾向にある中で利用促進に向けてもう一度テコ入れをする必要があるのではないかと。
- 会 長：続けるためには利用促進活動が必要であるということですのでよろしくお願いしたい。時間変更、ルート変更について説明したが、本運行への移行を行ってよいか。
- 事務局：ここで福地をよくする会会長は退出されます。

(福地をよくする会会長退出)

(本運行について承認を得る)

○会 長：福地地区の本運行は承認されたということですのでよろしくお願ひしたい。

○会 長：本題である「高梁市地域公共交通総合連携計画策定調査」の中間報告をお願ひしたい。

○事務局：第2回の交通会議で調査の仕方をご承認いただいた。その後、アンケート等の調査を行った。その結果は、このあとバイタルリードから全体説明をさせていただきたい。(P19のアンケート調査期間、回収率の説明。P56高校生アンケート調査期間、回収率の説明。P79大学生アンケート調査期間、回収率の説明。)前回の交通会議の説明のとおり、本日は基本方針の説明までさせていただきたい。

(2) 高梁市地域公共交通総合連携計画策定調査中間報告について

バイタルリード説明

○会 長：只今説明があった。何かご意見、ご質問等がありましたらお願ひしたい。アンケート結果が示されたがその結果について何かありませんか。

○委 員：P41「よく利用する買物先とバスを運行して欲しい買物先」のグラフがあるが、実際に行っている行き先とバスを運行して欲しい場所との関連等の分析結果は出ているのか。

○事務局：それについては今後細かく抽出して分析し、次回までに確認したい。

○会 長：アンケートについてほかにありませんか。

○委 員：アンケート結果と市が目指す交通政策とリンクしているのか。

○事務局：調査結果を取り急ぎまとめた段階であり、今後具体的に分析していけば見えてくるものがあると思う。単に公共交通の面だけでなく福祉施策等とリンクしたものが見えてくると考えている。

○会 長：そのような分析が市の政策、今回の計画に生かされると考えていいのか。

○事務局：そうです。

○委 員：P87「計画への参画意向」で「積極的に関わりたい」と回答した学生のうち、メールアドレスが得られた15名の学生と、今後どのような活動をしていくのか。行政としてはどう考えているのか。わかる範囲で教えてほしい。

○事務局：当初ワークショップを考えていたが、実現できなかった。意欲ある学生に集まっていた座談会を開いて意見を伺おうと考えている。それも難しいのであれば、インターネットを活用した意見の吸い上げを考えている。

○委 員：大学生のバス利用者は少ない。バスの利用者は高齢者が多い。あまり利用しない大学生の意見で高齢者が使うバス運行を考えていくという話なのか、それとも今は利用の少ない大学生のバス利用を促進する方向で考えていくのかによって話が変わってくる。どちらを想定しているのか。

○事務局：基本的には両方だと考えている。一点は大学・短大・専門学校3校の学生の生活実態を含めたバス利用の検討、二点目は高齢化の進んだ本市における公共交通を含めたまちづくりについて、大学生の視点からの意見収集をしたいと考えている。

○委 員：大学生だけでなく、高齢者も交えた話し合いでなければいけないのではないか。

○事務局：意見をいただける高齢者の選定を含め、市と相談して検討していきたい。

○委 員：P97「利用者の減少と経費の増大」とあるが、実際には「利用者の減少による経費の

増大」として欲しい。我々としては経費節減等について企業努力をしている。キロ当たり単価は広島県では300円程度だと思うが、当社は244円でやっている。そのような表現にしてほしい。

○事務局：備北バスの4条路線の収支率は他の路線に比べて高い。その原因は経費が低いという認識は持っている。

○委員：P74高校生アンケートの中で保護者の送迎について、よく聞くのが、通学時点では家族や近所の車に便乗し、帰りはバスを利用するということが聞かれますが、そのようなことはアンケートから読み取れるか。

○事務局：アンケートでは登校下校の設定分けをしていないので読み込めない。

○委員：実際に運行している立場から、そのような現象はある。下校時は利用者が多い。

○委員：市内2つの高校は駅から遠い。重い荷物を持っての通学は大変そうなので送迎は楽でいいのかもしれないが、バスの利用促進という立場からはバス利用をしてほしい。高校生がぎりぎりまで寝ており、親の送迎に頼る傾向があるのでは。その辺りの生活実態も含めて対策を立てる必要があるのではないか。

○会長：ほかに何かないか。問題点・課題・基本方針等も含めて皆様のご意見を。

○委員：基本方針の中で、観光振興に向けたバスとある。観光と地域交通とはかけ離れているが、このあたりは本当にそのような取り組みを考えているのか。

○事務局：現時点では意見を頂くために示している。ただ、市としても現在松山城へのシャトルバスの運行等を行っている。観光都市でもあるので示している。

○委員：観光面では重要だが、地域公共交通という視点とは違うものではないかという印象を持った。観光客を積極的に取り込むものであればいいが。

○委員：高梁市に住む人間としてみれば、観光資源にいいものがあるがそこに行くための公共交通がまったくない。観光地へのアクセス交通といったものを取り込んでいくのであれば高梁地域にふさわしい計画になるのではないかと思う。

○委員：以前関わった地域では、観光移動に自家用車を70%が使用していた。バスを待つ時間を次の移動に利用したいのが観光客で、そのような観光客を路線バスに乗せるのは難しく、そのような路線を設定してもあまり利用はないのではないか。観光を取り込んだバス輸送を組み込むことで生活バスの効率や予算が悪くなるようであればマイナス。観光客は切り離れたほうがいいのではないか。そうでないと大きく足を引っ張るような気がする。観光資源の開発等も進んでいない。毎日走らせても利用が見込めず負担になるのではないか。P9観光地の図があるが、本当に観光客がバスを利用する観光地はどれなのか。全国区の観光地か中国地方レベルの観光地程度の吸引力が必要。バスの計画と観光戦略とは切り離れた方がいいのではないか。

○会長：生活交通と観光交通とは整理して考えていく必要があると思う。

○委員：きちんと考えた上であれば問題ないと思うが、冷静な判断が必要ではないか。

○委員：今年8月に高梁元気プロジェクトに取り組んだが、観光地へのアクセスの不備の問題が必ず出てくる。我々としてはありがたいが、先生のご指摘のように生活交通とは少し違うような気がする。

○委員：観光客の輸送が生活交通を押し上げるほどの効果は期待できないのではないか。観光に必要であれば、専用のバスを臨時に運行していくことが現実的ではないか。

- 会 長：課題、問題点等についての議論が出ているがほかに何かありませんか。時間も迫っているので意見がないようであれば、今後の策定スケジュール等を説明していただきたい。
- 事務局：本来であれば今月までに「計画に位置づける事業の検討」までが含まれていたが、調査期間が短く時間がない中で十分な分析ができていない。できれば来月に再度、交通会議を開かせていただいて事業の方向性をお示ししたいと考えている。
- 会 長：事務局より詳細分析を踏まえて、1月中にもう一度開催したいとのことであるが、開催してもよいか。
- （承認）
- 会 長：それでは1月中にもう一度開催させていただき、詳細分析、課題、今後の基本的な方向等を示していただき、それをもとに最終的な計画につなげていきたい。長時間ありがとうございました。本日はこれで終わります。

4. 閉会（副会長）

長時間わたりご協議いただき、ありがとうございました。橋本先生には貴重なご意見をいただいた。これから細かい分析を行い、課題を抽出する中でご検討をお願いしたい。お元気で新年をお迎えいただきたい。ありがとうございました。